

第1回セミナーを4月19日(土)13:30～15:30 に開催しました。参加者の皆さんよりお預かりしたリフレクションをまとめました。

会 場 愛知文教大学 201教室

テーマ 「授業分析とは」

講 師 名古屋大学大学院 教授 柴田 好章 先生

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、主観に頼りすぎると権威主義に陥るということ 時には客観的に授業を見つめてみることです。

ジョークを交えながらのよどみないお話、まさに柴田節を楽しく拝聴しながら、頭の中ではこの一年どう授業を創っていかうかと模索することができました。今年は、初めて受け持つ学年なので、今はただただ子どものことを知ろうという気持ちでいっぱいです。毎年1学期末にはビデオを回し授業記録を起こしています。が、本日のお話を伺いちょっと早めに記録を起こし、客観的に子どもの内面を見つめてみようと思います。目で見ていだけでは気づけないことがきっと子どもの発言や様子から見えてくるだろうと思うからです。一昔前は自分のスキルアップや学校の研究として動画を撮り、授業記録を起こしていましたが、今は子どもを知りたいためという目的に自分の中で変わってきていることに、今日気づけました。私にとって授業は、「誰一人残らず子どもの学びが保証される場であり、それがあって子どもが学びを進め、自分の力を伸ばしていく時間」であると思っています。誰一人残らず学びが保障されているかを客観的に見つめていきたいと思っています。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、子どもの発言から意図や思いを考えることで、子どもの理解に繋がることです。

今まで、研究授業のあとの協議会で話される内容をどのように生かせば良いのか、授業をどのような視点で見ることが授業者の先生にとって良いのか、さまざまな先生方に聞いてもよく分からなかった。今回、講師の先生や周りの先生方とお話しすることを通して、1回の研究授業で多くのことを学ぼうとしすぎていたこと、研究授業で学べると思っていたことが少し違っていたことに気付いた。そして、子どもの言葉から学ぶ方法、研究授業で見る視点を得ることができた。今日学んだことを実際に学校で生かして、研究授業についてこれからも考えていきたい。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業を研究する授業研究も授業である。「教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形」につながる言葉であるように感じました。

「学び合う学び」を追究していく上でのとても大切な部分の話が聴けたと思います。子供中心の研究協議の在り方について、子どもの言葉にこだわっての教師の学び。なかなかできることではないが、その大切さを確認することができました。

また、自分自身、授業や授業研究について、次から次へと疑問が出てきていますが、柴田先生のお言葉にあった、「分からないから研究する」。これを聴き、さらに疑問を持つことの意義を感じることができました。

勇気づけられた研修だったように感じました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、科学化です。

授業における子どもの姿を捉えるには、授業記録が重要となり、そこにある事実をどう解釈するのかということはとても難しいけれども、協働して行うことに楽しさがありました。

「けど」に着目することで、一人の子どもの学びが見え始め、そこに関わる子どもの姿もより強く見えてきました。

教師は身体で授業をしている、それは無意識に。だから振り返ることが必要で、そこでやっとわかってくるというご意見にも心打たれました。

生まれた問いは、どのような記録があるべきなのか、逐語記録には何がどこまで必要なのか、ということです。音楽をフィールドとしているため、音が欠かせず、その音を生み出すものや人の動きも、言語でのやり取りがメインとなる科目とは少し異なると感じています。

また学びの機会をいただけますと嬉しいです。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、問いを立てること、溝を埋めることです。

柴田先生ありがとうございました。

脈々と受け継がれ、世界中に広がっている、授業研究について、短い時間でしたが、本物の柴田先生から今日も学び、自分がどんどん変化していきました。

あまりのおもしろさと語られた学問の深さに、身体が少し興奮状態です。

まだまだ生わかりでブヨブヨしています。簡単にわかった気にならないように、しっかりリフレクションし、実践との往還で、少しでも自分のものと思いたいと思います。

これからもたくさん学ばせてください。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業研究の意義 洞察力です。

教師は授業がプロとしてできるか？が重要だと思っています。

そこで、常に勉強して実践して、振り返り、また勉強してを繰り返していると思っています。しかし、日頃の忙しさの中どんどん勉強する時間とゆとりがなくなってしまうのが現状です。

今回、教師の洞察力という言葉が一番印象に残っています。教材対する洞察力と生徒に対する洞察力をもっと高めていきたいと思いました。

4月に行われる授業研究をもっと有意義なものにしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業記録をもとにした研究協議です。

改めて授業を記録に起こすということの大切さを学びました。記録をとることによって、子どものさまざまな発言を客観的に捉えることができると思いました。今の学校では、授業記録をとる文化がないため、まずは自分が数分でも良いので授業記録を起こすところから始めてみようと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、授業研究では、授業記録(子どもの事実)から読み取ったものを基に、自らの授業像を変容させるという意義があるということです。

実践者と研究者の両方の立場から、授業研究や授業分析の意義や方法について、学ぶことができました。コロナ禍を経て、授業研究・授業分析が形骸化してきているように感じるので、今回のセミナーのような内容を学校現場でも再確認していくことが肝要だと思いました。もし機会があれば、柴田先生が授業を参観されたとき、どのような授業記録を取られるのかも拝見したいと興味をもちました。

(振り返りが遅くなり、申し訳ございませんでした。企画・運営ありがとうございました。)

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、わからないから研究するです。

発言記録をもとに授業での学びを明らかにする授業分析は、古くて新しい研究である。

発言記録は授業の重要な要素だが、その他にも学習者の仕草や、時には沈黙も貴重な要素ではある。

テープレコーダーしか記録手段のなかった時代からの方法ではあるが、それでも子どもの発言は授業での学びを検討する最大の手段なのだ。

子どもの発言を意味を解明することは大変難しい課題だが、授業者は即時的に判断して(あるいは判断間違いをしながら)授業を進める。

研究者にとっても、実践者にとっても、これは苦しいが楽しい作業である。

教師が研究に時間をかけることはよくないとされることも多い時代だが、授業の深い楽しみを感じられない教員生活は味気ない。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは、子どもが見える教師を目指すことです。

いきなりの「授業とは」の質問に私は答えに窮しました。皆さんの的確な回答に驚くと同時に、「教材を介しての子ども同士の学び合い」とのまとめに、改めて教師主導の自分の授業を恥じ入るばかりでした。授業研究において、日常的には写真やビデオの活用は欠かせない

と思います。コロナ禍のときに授業をみんなで見るのが制限されたため、代表してビデオに撮って授業記録を作って研究協議に臨んだことが何度かありました。繰り返しビデオを見て授業記録を作る過程で、生の授業では気付かなかった多くの発見があり、一番多く学んだのは自分だと強く思いました。授業記録の大切さをこのセミナーで改めて深く学びました。また、自分の考えや主観を裏付けるために数値やグラフ等の客観資料を作るのが大学での研究というのもよく納得がいきました。